

## もも・ ネクタリン【縮葉病】について

### ✚ 病徴

- ・主に葉に発病する。

⇒発芽と同時に発病し、展葉後に黄色～赤色、火膨れ状の病斑が現れ奇形化する。その後は変色し落葉する。

### ✚ 発病条件

- ・菌は、枝や芽の表面に付着して越冬し、開花期頃の降雨によって若い葉に侵入して発病。発芽～5月下旬まで気温が低く降雨が多い時に発生。

### ✚ 防除方法

- ・菌が枝などの表面に付着しているので薬剤散布によって薬液が直接菌と接触しやすく、防除効果は高い。通常、1回の発芽前散布で十分な効果が得られる。
- ・発芽前の風のない穏やかな日を選び、散布むらのないように十分量を散布する。発芽期以降に防除すると著しく防除効果が劣る。

### ✚ 本年の発生原因

- ・本年は、豪雪だったため第1回休眠期防除がやや遅れた可能性がある。(平岡：白鳳発芽 4/3)
- ・薬剤散布時での風によりうまく薬液がかかりにくい状況もあったか。

### ✚ 今後の対応

- ・発病葉からの2次感染は、ほとんど考えられない為、次年度休眠期防除を徹底する。

